

情熱で繋ぐ町づくり

(1) イタリアでの交流を通じて

① トスカーナ州 アグリツーリズム

体験型の農業観光（宿泊、レストラン、農業体験）
日本でいうグリーンツーリズム、農家民泊みたいなものである。

先祖代々受け継いできた農地と家を守るため、その家や小屋を改装して始めた。結果、多くの若者が地元に戻り、農村の過疎化や高齢化の解消、所得向上につながった。



② プーリア州政府との意見交換

マッセリア（食育施設）の推進
食育のターゲットは、将来、消費者となっていく子供たち。

土地を学ぶ→食を学ぶ→より安全な食の知識を身に着ける。そのための体制づくりを整えた。

農業者が食育に取り組み、多角的な経営をすることで収入を生み、現在では209のマッセリアが登録されている。



③ プーリア州 食育施設「マッセリア」

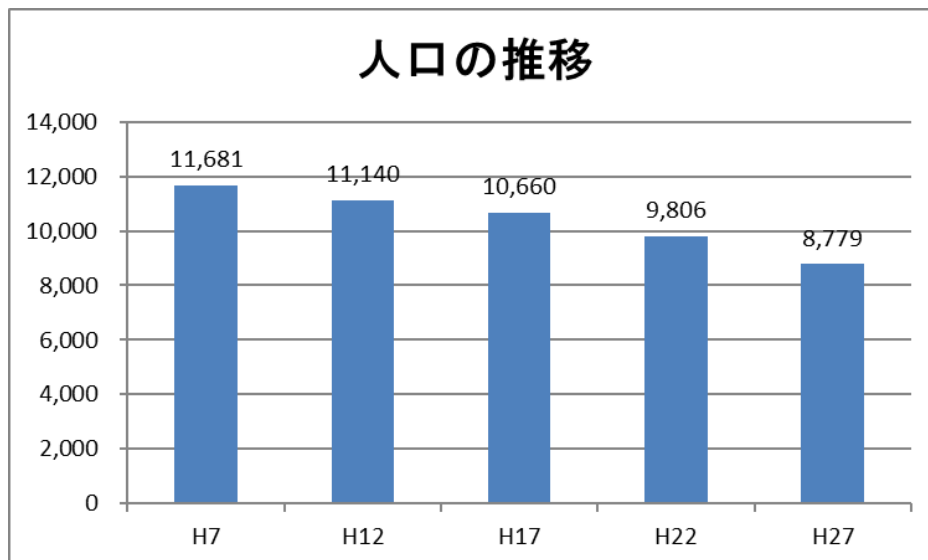
体験型の農業観光（宿泊、レストラン、食育）
先祖代々受け継いだ土地・建物を使い、雨の少ないこの土地でも作れるアーモンドに付加価値を加え販売。また、食育にも取り組むことで街と田舎とをつなぐ架け橋となり、ここの農産物の宣伝にもなっている。



- ・どこの視察先でも共通して言えることは、地元愛、情熱が強く、自分の仕事に対して「熱い」ということ。
- ・生き残るために「がむしゃら」に取り組まれている。

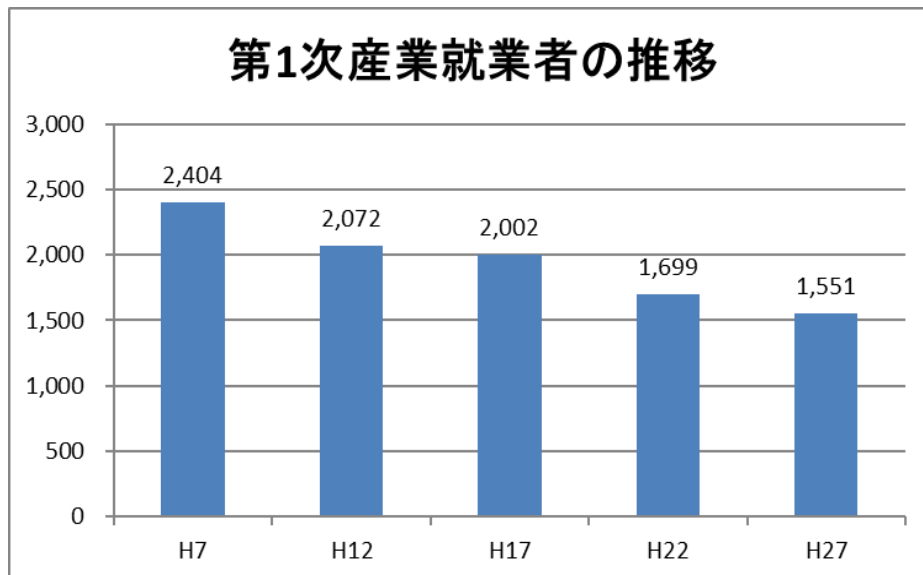
(2) 太良町の課題

①人口減少。若者の流出



平成7年から平成27年の20年間で人口は約25%減少している。

②第1次産業就業者の減少



平成7年から平成27年の20年間で人口は約35%減少している。

その他、後継者や新規就農者の減少、耕作放棄地の増加、有害鳥獣の被害増大など、様々な問題があるが、特に上記①、②については深刻な問題である。

(3) 太良町の取り組み

- ①親元就農給付金
地域の担い手としてやる気のある新規就農者に対する給付
- ②農業次世代人材投資事業費補助金
新規就農者を増やし、将来の日本農業を支える人材を確保
- ③地域づくり事業費補助金
産業の開発、育成のための研修事業、特産品の開発に関する事業、
イベント開催事業
- ④さが未来アシスト事業費補助金
地域活性化や地域再生のための補助。
- ⑤移住定住促進事業補助金
空き家バンク登録者に対する補助
- ⑥結婚祝金、出産祝金、入学祝金や学校給食補助事業 など

人口減少を食い止めるような政策は、すでに実施している。



なかなか改善されない・・・どうすれば？



受け入れる側の意識の改革が必要

(4) 政策提案

受け入れる側の意識の改革①

指導者の育成

- ①町内で既に新規就農希望者を受け入れ、後継者の指導を行っている方を講師に、町内の農業者を中心に研修等を行い、後継者指導の意義や、将来に対する意識の改革を行う。
- ②後継者指導等に関する知識習得や、受け入れ設備等に対する支援を行う。

その後



受け入れる側の意識の改革②

弟子(後継者)募集制度

- ①町内で就農を希望する者を募集し、指導者とのマッチングをしっかりと行う。

(5) まとめ

イタリアで感じた人々の「情熱」。

町内にも同じように、「情熱」を持って取り組んでいる方々がいる。



その「情熱」を町内全体に広げ、町ぐるみで後継者の育成に取り組む。



人口減少への歯止め、太良町の一時産業の復活、町全体の活性化につながる。